

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	高規格救急車整備事業	所管	消防本部 救急課
			TEL 2929-9123

事業の目的 (何の為に 行うか)	救急救命士が応急処置を行うために必要な構造及び整備を有する高規格救急車を更新整備計画に基づき整備する。
------------------------	---

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	高規格救急車の現有台数	対象とした数	8	台
		実際に 利用した数	2	台

活動の内容 (何を したか)	<ul style="list-style-type: none"> ・所沢市消防機械器具管理規定に基づき、高規格救急車の更新整備を図る。また、高規格救急車の更新に併せ医師の指示の下に医療行為(自動体外式除細動器による心臓への電気ショック、器具を用いた気道確保、静脈路確保等)を行うための高度救命用資機材の整備を行う。 ・所沢市消防機械器具管理規定に示す高規格救急車の更新年数(10万キロまたは8年)に基づき整備計画をたてる。 (年度別計画台数: 19年-2台、20年-2台、21年-1台) ・更新車両1台は国庫補助制度(緊急消防援助隊設備整備費補助事業)を利用し財源の軽減を図った。 							
	活動実績	項目名	高規格救急自動車の更新整備実施台数	2	項目名		項目名	

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	60,899	52,214	65,861	194.2

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	高規格救急自動車の更新整備台数	更新整備台数/更新整備対象台数	2 単位 台	2 単位 台	100.0 単位 %

今後の方向性 (所管の意見)	総合評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他 []				
		終了 ⇒ 事業完了 終了 休止				
	予算	現状どおり 増額 * 減額 終了				

今後の方向性 (二次評価の意見)	二次評価実施の有無 * 有り⇒下記評価へ 無し⇒終了					
	総合評価	拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他 [] 終了				
	予算	現状どおり 増額 * 減額 終了				

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当 部課	部課コード	100400	TEL	2929-9123
事業コード	高規格救急車整備事業					
100402						
開始年度		平成 3 年度	—	終了年度	平成 年度	

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託+附加			根拠法令			
	分野別計画・指針	なし			消防法施行令第44条、救急業務実施基準第9条の3			
	関連・類似事業	なし						
	総合計画の体系	政策	第6章 みんなが安心して暮らせるゆとりあるまち	施策	1節 消防・救急	中柱	3 救急業務の高度化	小柱

・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 13 位		・実施計画における位置づけ… H19 O H20 A	
行政改革大綱における行動計画への位置づけ			
コード	3261	コード	
事務事業見直しの推進			
事業開始の背景			
平成3年に救急救命士法が施行され、救急救命士の資格を有する救急隊員には、医師の指示の下に医療行為(自動体外式除細動器による心臓への電気ショック、器具を用いた気道確保、静脈路確保等)が認められることになった。これら高度救命用資機材の整備と併せて、救急救命士が応急処置等を行うために必要な構造及び整備を有する高規格救急車の整備が必要となった。			

③事業の内容	目的(何のために行か、具体的に)										
	救急救命士が応急処置を行うために必要な構造及び整備を有する高規格救急車を更新整備計画に基づき整備する。										
	対象(誰を、何を対象としているのか)		利用数の考え方								
	高規格救急車の現有台数		高規格救急車の更新台数								
	対象数	単位	平成 18 年度	8 台	平成 19 年度	8 台	利用数	単位	平成 18 年度	0 台	平成 19 年度
事業の具体的な内容及び実施方法											
<ul style="list-style-type: none"> 所沢市消防機械器具管理規定に基づき、高規格救急車の更新整備を図る。また、高規格救急車の更新に併せ医師の指示の下に医療行為(自動体外式除細動器による心臓への電気ショック、器具を用いた気道確保、静脈路確保等)を行うための高度救命用資機材の整備を行う。 所沢市消防機械器具管理規定に示す高規格救急車の更新年数(10万キロまたは8年)に基づき整備計画をたてる。(年度別計画台数:19年-2台、20年-2台、21年-1台) 更新車両1台は国庫補助制度(緊急消防援助隊設備整備費補助事業)を利用し財源の軽減を図った。 											

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)		◀ 最終評価 <input checked="" type="checkbox"/> 一次評価 <input type="checkbox"/> 二次評価 ▶	
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ())		
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了		
平成19年度中に改善した点				
<ul style="list-style-type: none"> 年々増加する救急需要に対応するため、救急隊1隊の増隊による職員の増員、体制の強化が決定したことから、高規格救急自動車1台増車する。 増車する高規格救急自動車については、国庫補助制度(入間基地周辺消防施設設置助成事業)を要望し財源の軽減を図る。 				

⑤経費	《会計種別》		一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算			2,938	60,899	60,258
	決算(見込み含む)			2,786	52,214	
	(嘱託職員)(臨時職員)		(人) (人) (人) (人)			
	正規職員人件費			0.50 人 4,600	0.55 人 5,167	※「財源内訳」について平成20年度のみ、当初予算の内訳となっています。
	公債費			5,278	8,480	
	事業費合計			12,664	65,861	
	財源内訳					
	一般財源			12,664	18,484	60,258
	国・県支出金				9,877	
受益者負担金						
市債				37,500		
その他						
市民一人当たり(単位:円)			37.5	194.2		
利用数一単位あたり(単位:円)			#DIV/0!	32,930,350.0		

⑥指標	活動実績	項目名	高規格救急自動車の更新整備実施台数	計算方法	更新整備した台数	単位	台	H 18	0	H 19	2	H20見込み	2	将来目標
		成果分析	高規格救急自動車の更新整備台数	更新整備台数/更新整備対象台数	台	目標値	1	実績	0	2	実績値の拡大を図る1	実績値の縮小を図る2	1	
			%	達成率	****	100.0								

⑦一次評価	評価項目	現状評価	事業の対象を見直す必要性	評価項目	現状評価	現在の実施主体	消防本部	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	対象設定	<input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	実施主体	消防本部	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
	他事業との整理・統合	<input type="checkbox"/> 統合する <input type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業がない <input checked="" type="checkbox"/> 統合等必要なし	受益と負担の関係	受益者負担の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	明らかとなった課題	国庫補助制度は、隔年(防衛省)若しくは補助を受けた後5年経過(消防庁)しなければ、補助制度を利用できない。年度ごとの財政負担の均衡を図るため高規格救急車の更新は計画的に実施していく必要がある。車両の更新に併せて整備する資機材は、年々新たなものが研究・開発されていることから、当市で適応する資機材を研究したうえ仕様書を作成する必要がある。							
	今期目標項目(何を)	高規格救急車(増隊車)を整備する。また、柳瀬分署高規格救急車を更新する。	達成水準(どこまで)	整備、更新する高規格救急車には、最新の高度救命用資機材を併せて整備する。また、増車救急車は入間基地周辺消防施設設置助成事業により整備する。	時期(いつまで)	平成21年2月			
平成21年度における事業の方向性									
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ())								
予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input checked="" type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了								
評価理由									
救急業務は市民の意識において必要不可欠な行政サービスであり、行政サービスの維持・向上を図るうえでも更新整備は重要な業務である。また、年々増加する救急現場に対応するため救急隊及び救急車を増やすことも必要である。更新整備については、年度ごとの財政負担の均衡を図り補助制度を考慮し計画的に実施する。また、救急車に積載する資機材については、資機材の性能等を調査・研究し仕様書を作成する。									
評価日	平成20年5月7日	記入者職氏名	救急課長 荒幡憲作						

⑧二次評価	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 終了					
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input checked="" type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了					
	事前評価	部内優先順位… 3 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価
評価理由	高規格救急車の使用実態(走行距離20~30万km)を踏まえれば、規程基準に基づいて交換は必要な対応であり、それぞれ計画を踏まえて「改善・効率化」「減額」とする。						
評価日	9月1日						

⑨個別計画における方向性	◎環境基本計画		本事業の左記計画における位置づけ… 無し		計画コード	
	施策の体系	実施の方向				
	◎次世代育成支援行動計画		本事業の左記計画における位置づけ… 無し		計画コード	
	基本目標					
主要課題						
施策の方向						